

【2009年度】放送番組審議会

JCN 関東ならびにジャパンケーブルネット(JCN)の概要について

開催年月日 2009年5月31日(日) 11:00~14:00

開催場所 大宮ソニックシティ 708会議室

出席者

放送番組審議委員

會田委員(越谷市)、雨宮委員(春日部市)、植田委員(越谷市)、梶並委員(川口市)、富田委員(草加市)、平田委員(鳩山町)

※そう (※1) 野委員(越谷市)は欠席

※1 『そう』は「十」に「くさかんむり」に「木」

JCN 関東

小田代表取締役社長、本多営業推進部長、渡辺南支社長、粕谷西支社副支社長、佐藤県央支社長、小山春日部支社長、石渡越谷支社長

事務局 (コミュニケーション G)

駒塚 GM、橋本M、木村(亜)、土田、白井、奥原、木村(奈)、高科、杉山(書記)

議事内容

1. 進め方のご案内

スケジュール案内及び審議会の撮影放送の承諾

2. 委嘱状の交付

小田社長より各委員に交付

3. 委員、出席者紹介

4. 小田社長挨拶

JCN 関東ならびにジャパンケーブルネット (JCN)の概要について説明し、コミュニティチャンネルを通じて、当社が地域のケーブルテレビ局として皆さまに役立つ番組を継続的に提供していきたいことを伝えた。そのためにも、審議員のみなさまからは活発なご意見を是非とも頂きたいことをお願いした。

5. 前多コミュニティコンテンツ運用部長挨拶

JCN のコミチャン運営の方針は、地域情報を早く提供することにより、地域との連携を図ってきている。審議いただく内容をしっかりと受け止め、みなさまの良きパートナーとして今後の番組運営に役立てたいことを説明した。

6. 本多営業推進部長挨拶 昨年の事業概要説明

昨年度の事業概要と JCN 関東発足までの経緯、以下のトピックについて説明。

- ・テプコケーブルの発足から 20 年経ち、更なる飛躍に向け、JCN グループの一員として本年 4 月より「JCN 関東」としてスタートした。
- ・弊社は、有料事業を軸に、ケーブルテレビ局同士が連携して効率的経営を展開する JCN グループにて更なる飛躍を目指す。
- ・近々、新サービスの提供を予定。ハイビジョンも標準メニューとして準備している。
- ・去年は、蓮田市、坂戸市の有料事業エリアを拡大。川口周辺の関東ケーブルテレビエリアの設備を更新し、加入世帯は全体で 12 万 6 千世帯となった。
- ・昨年 9 月にアナログ多チャンネルサービスを終了し新座エリアでのサービスを終了。
- ・現在、春日部市庄和と関東ケーブルの八潮三郷のエリアにサービス拡大している。
- ・具体的な新メニューの内容説明(多チャンネル映像、VOD、160M インターネット等)
- ・ケーブルプラス電話間が 24 時間通話無料サービスを 8 月から開始 等。

【質疑応答】

植田委員：新チャンネルはもう見られるのか。

本多部長：新サービスを開始後、ご契約変更を頂ければ見られます。

植田委員：フジテレビが標準（デジマックス）で見られるのはとてもいい。

富田委員：現在の契約はデジワイドですが、契約は結び直さなければならないのか。

本多部長：サービスメニューの切替え申し込みが必要になります。

駒塚GM：詳細はこの後、番組モニターのご案内でご説明させていただきます。

7. モニターのお願い(木村(亜))

モニター制度や同意書について資料に基づいて説明があり、モニター終了時に新メニューを選択されていた場合は、現在のメニュー（デジワイド、45 デジタル）に戻ることができないことなどを説明し、了解いただいた。

8. コミュニティチャンネル番組のご視聴と意見交換

橋本 M より自主制作番組のコンセプトや視聴ターゲットなどを説明。毎週 7 本の自主制作番組と隔週更新の関東なび等、全 11 番組を紹介。地域情報番組の「まちネタ!」は、視聴者や各行政からの取材依頼も増えおり、地元での認知度が増してきている。様々なリサーチから視聴者ニーズを収集して番組制作に反映している。

駒塚 GM より自主企画イベント等について紹介。

- ・市民映像コンテストは、地元のみなさまの作品発表の場としても活用されており、作品応募者からは大変好評を得た。
- ・林家いっ平落語会は、加入者感謝イベントとして企画しており、定員の 3 倍のご応募があった。

落語会の会場にて併せて開催した「多チャンネル検定」では、多チャンネル映像の魅力をクイズ形式で出題し、楽しんでいただいた。

- ・昨夏、埼玉県で開催された高校総体では、裏方の高校生スタッフの取組みを特別番組で紹介したり、当日の競技結果を夕方に文字放送で情報発信した。

休憩の後、昼食をとりながら番組視聴

(1)「まちネタ！」

小田社長：番組を途中から見た場合、どこの町のイベントが取り上げられているのかが分からない。文字テロップを挿入するなど工夫をしたい。今後の話として VOD に加えて、コミチャンを FOD(フリーオンデマンド)でも放送できるよう計画している。

白井 P (P=プロデューサー)：「まちネタ！」は 7 人で制作している。

コンセプトは生活情報を正しく提供することで、イベントを取材し様子を紹介する過去の項目に加えて、今後のイベント予定の告知を行うなど参加促進のネタも織り込んでいる。市長選の取材では、初登庁を取り上げて生の声を伝えている。

(6/1～放送のさいたま市長初登庁 VTR を紹介)

週 6～7 本を取材しているが、現在の課題は放送サイクルや取材本数を増やすなど、きめ細かな情報提供を行うことを考えている。

最近の取材は、視聴者やイベント主催者、行政からの情報提供が増えている。

會田委員：情報提供では、こんなネタを言って良いのかと悩む事が多い。取材先を選択する際の判断基準はあるのか。

白井 P：定義はない。その都度考えて対応している。しかし取材先のエリアバランスなどは配慮している。また、営利的な内容の紹介はご遠慮いただいている。

石渡支社長：越谷地区では、郷土研究会から支社に情報を頂き、本社の制作担当箇所へ情報を送っている。

小田社長：みなさまが見たいとか紹介してもらいたいと思うものなら何でも構わない。みなさまの顔を出来るだけ撮っていきたくとも考えている。

植田委員：迷い人情報等、地域ごとに情報発信ができないかと考える。デジタル放送は双方向なので 画面に触ると情報が送れるようになればいい。防災無線は建物の中では内容が聞き取れず、メールでは事前に必要性を感じて登録した人にしか届かないため、テレビは有効な情報伝達手段であると考えます。

小田社長：JCN 関東は、まだ完全双方向が出来ていないが、データ放送が始まると越谷市が出したい情報も流せるようになると思う。(有料サービス)

本多部長：JCN 他局のサービスにデータ放送や子ども防犯情報などがある。しかし画面にタッチして情報発信するのは次のステップと考える。

小田社長：プラスチャンネルやデータ放送はリモコンのカラーボタンで家族それぞれのポータルサイトにカスタマイズできるようになる。

前田 JCN 部長：データ放送で提供する安全安心情報は、行政担当からのメール情報を自動的に反映する事ができ、JCN グループ局の 7 割が導入活用している。画面タッチはまだ難しいがリモコンでの選択は可能である。

白井 P：7 月は間に合わないが今後の地デジに加えてデータ放送の導入も検討している。

(2)「日帰り最前線」視聴

木村(巫)P：林家三平師匠に出演いただいて 8 年目となる。昨年から現在の温浴施設の紹介番組を放送している。埼玉県は温浴施設の激戦区であり、4 月から日帰り温泉ツアーと題して周辺施設や食べ物や先端企業・ショップを紹介するトレンド最前線もコーナーとして新たに設けた。

梶並委員：川口市の施設紹介があったが、地元に在りながら知らない所で興味が持てた。

植田委員：私は去年番組で見た温泉施設に行きました。普段は外観しか見たことない施設を動画で案内してくれるため安心して行けた。

富田委員：行動範囲は草加から 1 駅程度であるため、隣の足立区も取り上げて良いのでは。

植田委員：昨年越谷に出来たショッピングモールは、若い人が行く所と考える人が多い。年配者向けの切り口で番組を作るのもいいのではないか。

小田社長：熟年向けの番組もいいですね。民放 CM は若い人向けがほとんどである。CATV は年配の人をターゲットにする等考えていかなければならない。

木村 P：当番組の視聴ターゲットはファミリー向け。実際には幅広い世代からプレゼント応募が届いている。

(3)「彩の国シネマ通り」視聴

木村 P：日帰り最前線とセットの 30 分番組の一部（10 分）に放送。昨年からホームページとガイド紙でチケットプレゼントの募集を行っているが、意外と 60 代の応募が多い。

平田委員：シネマ通りの番組は知っていたが、今まで素通りしていた。今後はもっと見たい。

富田委員：草加駅前の映画館が最近閉館した。招待券のプレゼントも知らなかった。今後は応募したいと思った。

(4)「グルメコレクション」視聴

白井 P：みなさまの食生活に彩りを加える“グルメ”というコンセプトで番組を作っている。前の番組(くいしんぼうプリンセス)よりも対象世代を上げて制作している。

雨宮委員：グルメ番組に限らないが、癒しの要素も加えると更にいいと思う。すぐに行動は難しいが、子どもの給食の地産地消などを家族で話し合える話題がほしい。

石渡支社長：支社も地域の活性化に貢献したい。社員が昼にいろんなお店を食べ歩き、おいしい店を見つけて放送に繋げたこともある。

白井 P：前の番組では視聴者からのお店紹介の情報提供は少なかったが、当番組では地域やお店からの情報が多くなった。

(5)「歴史ウォーキング」視聴

木村 P：リタイア世代に向けての番組と考えている。出演の奥野さんが実際に歩いたコース等を取り上げており、「埼玉あるけ通信」(NPO 法人埼玉県ウォーキング協会)でも番組紹介を頂いている。

駒塚 GM：年配の方に人気がある番組で、頂いたご意見は番組に素直に取り入れるようにしている。例えば、歩くシーンが少ないとか、地図が見えにくいなどに対しては、すぐに改善して対応している。

平田委員：確かに歩く姿が少ないように感じる。地図は分かり易い。

奥原：地図はホームページでのダウンロードが可能。各見所も記載している。

梶並委員：夫も当番組をよく見ている。民放などの旅番組は地元の方の声がある。この番組でも、そのような地元の声が入るといい。

駒塚 GM：シーズン 5 で県内のコースは概ね一巡した感じがしている。

(6)「ペット館」視聴

高科 P：ペットであればどんな種類の動物でも紹介している。芸ができる等は取材と関係はない。おもしろいと言うよりは、和んで頂きたい番組と考える。

(7)「関東なび」視聴

木村 P：当局が視聴者さまに発信したい情報を扱う番組。2 週間ごとに更新しており、今回はショッピングチャンネルのチラシと連動した内容を取り上げた。

【その他ご意見】

會田委員：今回視聴した番組には越谷が多く取り上げられていた。知らない事や場所が多かった印象を受けた。温浴施設に関連して岩盤浴が流行なので取材先に検討されてはどうか。また、越谷には鮎料理専門店もありグルメ番組で取り上げられてはどうか。

雨宮委員：リタイアして CATV 見るようになった。妻と女性向け番組や地元の食材を使った料理番組に関心を持っている。

植田委員：良い番組が多いと思う。視聴者を増やすことも必要だと思う。視聴者が出演する番組が少ないように感じた。学校の取り組みを紹介する場合は、協力させていただきたい。

小田社長：立川の CATV (マイテレビ) では小学校対抗の「なわとび選手権」をやっている。なわとびの回数を競って表彰している。なわとびをしている子どもたちと応援をする保護者、そしてケーブルテレビ会社の三者が一体となって取り組んでいる。

植田委員：テレビ朝日の 30 人 31 脚では、越谷市の学校が強い。

梶並委員：「まちネタ！」は一週間単位での更新だが、週 2 回更新ぐらいがいいのではないかな。放送時間も民放と重なっているのを考えてほしい。放送内容が身近な話題であり良いと思う。

小田社長：JCN グループの他局では、デイリー放送を基準にしている。放送の時間帯は考え

ていきたい。

富田委員：前のグルメ番組はチャラチャラしていて見なかったが、新番組は見やすい。地元での会合の幹事を任された時には、このグルメ番組が参考になる。ウォーキングは得意では無いのでサイクリングもあると良い。

平田委員：「まちネタ！」は行政情報が多いと思う。視聴者提供のネタも多い方がいい。これから開催されるイベントや催し事の紹介も出来れば良いと思う。営業の地デジのPRでは誤解を招き苦情になる場合もあるため丁寧に対応して欲しい。

本多部長：地デジ化に伴う営業活動では、昨年より消費者センターや行政からの指導を受けている。地デジが見られなくなるという営業はしていない。戸別訪問による対面営業なので顔を合わせて誠実に対応したい。委員の皆さんには番組をご覧になって良いと思ったら是非ともPRしていただきたい。また逆に不適切な内容があれば、ご指導を願いたい。

9. 閉会の挨拶

以上